

令和5年度下松市総合教育会議議事録

1 開催日時 令和5年11月10日（金）午後1時30分～午後3時

2 開催場所 下松市役所5階 503会議室

3 出席者 〔構成員〕

市長	國井益雄
教育長	玉川良雄
教育委員会委員	江口雄二
教育委員会委員	林 哲人
教育委員会委員	木佐谷真理子
教育委員会委員	笠谷 由美子

〔関係者〕

企画財政部長	真鍋俊幸
総務部長	広中和博
地域振興部長	原田幸雄
教育部長	河村貴子
教育次長	深野浩明
学校教育課長	藤田康伸
学校給食課長	小林政幸
生涯学習振興課長	引頭康行
図書館長	長弘純子
地域交流課長	河村敬良
学校教育課指導主事	古川幸史
教育総務課管理係長	金子麻紀

4 会議の付議の顛末

○**教育次長** それでは、会議のほうに入らせていただきます。

私は、本日の進行を務めます下松市教育委員会教育総務課長の深野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、國井市長より御挨拶をお願いいたします。

○**市長** 改めまして、皆さん、こんにちは。

今日は、令和5年度の下松市総合教育会議の開催に当たりまして一言御挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様には、御多用の中をお集りいただきまして、本当にありがとうございます。

した。この総合教育会議は、市長部局と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育についての課題や、あるべき姿を共有する場でございます。様々な協議ができるよう進めてまいりますので、お力添えを頂きますように、よろしくお願いを申し上げます。

さて、本日の議題は、下松市における学校部活動の地域移行について、子供たちの新しいスポーツ・文化活動の在り方であります。

学校部活動につきましては、国において、学校から地域へ移行する大きな改革の方向性が示され、本市におきましても市と教育委員会が連携して取組を進めているところでございます。

学校部活動を取り巻く状況につきましては、様々な課題があると認識しております。本市の子供たちがスポーツや文化活動に親しみ、充実した生活を送ることができるよう、地域の協力の下、オールくだまつで子供たちの安全安心な放課後の確保に取り組んでまいりたいと考えております。

本日の会議を契機に目指す方向性を共有し、今後の取組がますます進展することを期待しているところであります。

本日は、委員の皆様方の忌憚のない御意見を賜り、実りある会議となりますようお願い申し上げます。簡単でございますが、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いをいたします。

○教育次長 ありがとうございます。

それでは、本日の日程につきまして御説明をさせていただきます。

初めに、河村地域交流課長から、下松市における学校部活動の地域移行について、子供たちの新しいスポーツ・文化活動の在り方についての説明を行います。

その後、市長と教育委員会との意見交換、協議を行うこととしております。

それでは、河村課長、よろしくお願いをいたします。

○地域交流課長 地域交流課長の河村です。どうぞよろしくお願いをいたします。

下松市における学校部活動の地域移行について、子供たちの新しいスポーツ・文化活動の在り方について、お配りしておりますお手元の資料と同じものを前のモニターのほうに映し出しております。それに従って説明のほうをさせていただきます。

まず、1です。学校部活動の地域移行とはということで、部活動の地域移行という言葉について、報道等で目や耳にされることが増えているかと思えます。何となくのイメージは持たれ、御存じのことも多いかと思えますけれども、国や県が示す方針、こちらを基に改めてその概要を説明させていただきます。

昨年12月に国が示したガイドラインにおいて、学校部活動を取り巻く環境の変化について上げられています。

その内容としましては、少子化が進展する中、学校や地域によっては部活動の存続が困難な状況にあること、さらに、学校の教員の働き方改革が進む中、教師による指導体制の継続がより厳しくなっていること、この2点が問題として提起されました。

こうした少子化、そして学校の働き方改革、この2つの要因によりまして、部活動をこれまでの学校単位から地域単位の取組とするべきとの指摘がなされました。これを実現するために、令和5年度以降、休日の部活動について、段階的に地域への移行を図ることとされています。

こうした国のガイドラインを受けて、山口県では、今年10月に新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針を策定・公表しています。

県では、国が示す地域の子供たちは学校を含めた地域で育てるを基本的な考え方としまして、1、生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消すること、2、学校部活動の意義や役割を地域クラブ活動に継承し発展させること、そして、3として、地域で多様な体験や交流を通じた学びなど、新たな価値が創出されるよう環境を整備することを目指すこととしています。

県の方向性としましては、国のガイドラインに沿って、令和5年度から7年度末までの3年間で改革推進期間とし、県内全ての市・町において、休日の学校部活動の地域連携、または地域移行に向けた取組を実施することとしています。

なお、平日の活動の移行については、地域の実情に応じて、できるところから取り組むこととしています。

本市においても、この県の方向性に準じて部活動改革を推進していくこととしております。

それでは、ここからは、こうした国や県の方針を受けて、下松市の状況はどうなっているのかと、どのように考えているのかということに関して話を移していきたいというふうに思います。

まず、本市の部活動に関する資料として、部活動の現状と学校アンケートの結果を掲載しております。こちらについては、学校教育課のほうから説明をいたします。

○学校教育課長 学校教育課、藤田と申します。よろしくお願ひいたします。

2の本市における学校部活動の現状について御説明いたします。

先ほどの説明に、地域移行の要因として少子化傾向がございましたが、本市においても今後5年間で、末武中学校では増加の見込みでございますが、下松中学校では約12%、久保中学校では約15%の生徒が減少すると予想されております。

次に、部活動の種目と所属する生徒数ですが、臨時部も含めまして、運動部は、下松中15、久保中10、末武中18種目であります。学校規模により実施できる種目の差が大きくなっており、今後さらに生徒の減少により部の成立が難しくなる場合も出てくることから、この差はますます広がっていくと考えております。部活動については、学校単位ではなく、市全体で対応をしていく必要があると考えております。

文化部の種目は、下松中3、久保中2、末武中10種目で、運動部以上に差が顕著です。所属する学校に種目がなければ、例えば小学校期に習っていた種目を諦めていた例もあったと聞いております。こうした体験格差の解消にも地域移行は期待されております。

なお、学校部活動の活動時間につきましては、平日は週4日、1日2時間、それから、休日は週、土日どちらか1日で3時間を基本としております。大会前や大会中については、時間を調整しながら活動を行っているところです。

ただし、文化部については、吹奏楽部を除いて、ほぼ平日に行われております。

また、現在9割の生徒が学校部活動に所属しておりますが、既にクラブチームで活動している生徒もいる状況です。

次に、3、学校でのアンケート結果について説明をいたします。

令和4年度に中学校1、2年生、小学校高学年、中学校教員を対象に、移行に関するアンケート調査を実施いたしました。今後、地域移行により学校の枠がない場合でも活動に参加したいと答えた児童は約6割となっております。中学生もほぼ同じ傾向でございます。

部活動で目指したいところがございますが、仲間と仲良く活動したいが最も多く、技術や技能を身に着けること、試合に勝つことやコンクールで入賞したいなどが同程度となっております。

学校の教員につきましては、約3割の教員が何らかの形で地域クラブ活動等に関わっていきたいと回答をしております。

関わりの内訳としましては、指導者としてが55%、指導は難しいが何らかの手伝いとしてが45%と半々ぐらいとなっております。教員には転勤等ございますので、地域クラブへの関わりも、学校に所属というよりは、自分の地元などの地域の指導者として関わることや、また、既に自分が所属して活動をしている団体等を想定している可能性があります。

地域移行の要因としましては、教員の働き方改革の視点もありましたが、本市においても在校等時間の上限方針である月45時間を、小学校では約4割、中学校では約6割の教員が超えており、教員の勤務改善についても待ったなしの状況であります。

学校部活動は、平日の放課後や休日に実施されておりますので、適正な地域移行の実現により、授業研究の時間の確保や、子供一人一人と向き合う時間的・心理的余裕が生まれることなどが期待されているところです。

全国的に学校部活動や地域におけるスポーツ・文化活動の体制が見直される今、本市においてもこの機を捉え、見直しを進めていく必要があると考えております。

○地域交流課長 では、続きまして、大きい4番、本市における地域移行の方向性ということで、まず、地域クラブ活動という言葉を使っております。学校で行われる部活動に対して、地域の受皿によって社会教育の一環として行われる活動、これを地域クラブ活動ということとしています。

本市が目指す地域クラブ活動のポイントは2つになります。1つ目は、子供がスポーツ・文化芸術に親しむ機会を確保し、心と体の健全育成を図ること、そしてもう一つは、地域での活動を通じた交流、新たな価値が生まれ、地域においてよりよいスポーツ・文化芸術の環境づくりにつなげていくことです。

そのために、地域、学校、行政が連携し、子供が地域で安心して様々な活動に取り組むことのできる持続可能な環境づくりをオールくたまつで進めてまいります。

本市における地域移行のスケジュールにつきましては、令和7年度末までを目指し、休日の部活動について地域クラブ活動の環境整備を図ります。

なお、地域での受入体制が整った活動については、その時点で順次移行することになります。

まずは、休日からの移行としておりますけれども、実際には平日と休日の活動を切り離して考えるのが現実ではない場合も想定されます。原則として、平日と休日の同時移行を目指しますが、平日の活動については、地域の実情に応じて、できるところから移行することとしています。

また、学校部活動といった場合、中学校がメインになることは確かなのですが、一番下にあります、小学校においても吹奏楽などの活動を頑張っておられます。小学校における部活動についても、この地域移行の対象になりますので、本市では併せて地域への移行を進めていくこととしております。

次に、地域の受皿としてイメージをしていただくために、地域クラブ活動の実施主体として想定される4つの形態、パターンを例として挙げています。

1つ目は、新たなクラブの立ち上げです。地域移行の流れを受けて、市内においても既に幾つかのクラブが自主的に立ち上げられています。

2つ目は、既存の民間クラブや公民館における講座、サークル活動、同好会などが子供たちを受け入れるパターンです。こうした流れができますと、子供たちにとっては、これまでになかった選択肢が増えることになり、受け入れる既存の団体にとっても活動の幅が広がるという相乗効果が期待されるということになります。

3つ目は、スポーツ少年団の中学部という言い方をしておりますけれども、現在は、基本的に小学生を対象に活動を行っているスポーツ少年団のチームが中学生を受け入れるパターンです。さらに言いますと、高校の部活動、これに中学生が参加する、こういったケースも考えられるかもしれません。

4つ目ですけれども、中学校の部活動を母体としたクラブです。現在の学校部活動を地域が受皿として引き継ぐ形も、特に移行段階、移行途中の段階については想定をされるというふうに考えております。

これまで挙げたとおり、新たな地域クラブの形態については様々な形がございます。あくまでも地域の受皿としてイメージをしていただくために例として挙げたものですので、これらの形に特にこだわるといったものではございませんし、ほかの形がありましたら柔軟に対応していきたいというふうに考えています。

なお、現在は、地域クラブの要件のほうを定めまして、登録してもらおうような体制づくり、これに向けて検討を進めている段階にあります。

続いて、地域クラブ活動が運営する上で、課題を、主なものとして5つほど記載してお

ります。

まず1番、指導者の量・質の確保について。

地域において、専門性や資質・能力を有する指導者を確保することは最大の課題になります。指導者の養成や資質の向上の取組についても併せて行っていく必要があります。

2、活動場所・備品の確保について。

活動場所については、子供たちの移動や施設の使用料、備品の保管面、そういったものを考えますと、これまでと同じように学校施設での活動が望ましいというふうには考えております。

しかしながら、地域の方が指導者となる場合については、おのずと活動時間が遅くなるという関係がありますので、今は大人の方が行っている活動と重なりまして、思うように場所の確保ができないと、そういった問題についても考える必要があるのかなというふうに考えております。

3、保護者の負担について。

子供の送迎面ですとか、活動の維持・運営に必要な費用面、こういったものが保護者の負担になることが考えられます。これについても、どういった配慮、そして支援ができるのか、検討が必要というふうに考えております。

4、指導者の報酬について。

可能な限り低廉な金額の設定が望ましいとされていますけれども、継続して活動できる団体の運営に大きく影響するものになります。3番の保護者の負担とも関係しますので、しっかりと検討をしていく必要があるというふうに考えております。

そして、5、その他として、保険の加入、そして、責任の所在、事故・トラブル等へ対応する対応ということです。

全て大きな課題ばかりになりますけれども、一つ一つ丁寧に対応を検討してまいりたいと考えております。

前のページのほうで挙げたとおり、地域クラブ活動の運営に係る課題については、現時点で考えているものだけでも数多くございます。これまで学校が担ってきた部活動について、新たに地域が受皿となってやっていくという大きな改革になりますので、解決しなければならない課題が多くある、これについては当然のことというふうに考えております。

こうした状況に対応するために、本市においては、新たな地域クラブ活動を円滑に展開していくことを目的に、環境整備や運営を統括する組織として、運営団体を置くこととしています。市は、運営団体と協力をし、各中学校と連携を図ることにより、地域の実情に合った活動をサポートしていきたいというふうに考えております。

そして、これが最後のページになるのですが、子供たちの新しいスポーツ、そして文化活動として、本市のイメージを図のほうで載せています。子供たちにとって、これまでは学校で先生と一緒に取り組んでいた部活動が、これからは地域で様々な人たちのサポートを受けながら、生涯スポーツ・文化活動として取り組んでいくことになる、そうい

った新たな姿をイメージしていただけたらというふうに思います。

この部活動の地域移行により、学校の枠組みにとらわれない新たな選択肢も含めた子供たちの活動機会の充実も期待されています。子供たちの関心や興味に応じて、スポーツ・文化芸術活動へ取り組むことができる環境の整備に向け、引き続き準備を着実に進めてまいりたいと考えております。

以上で、説明を終わります。どうもありがとうございました。(拍手)

○教育次長 それでは、議事のほうに入らせていただきます。

議事の進行につきましては、下松市総合教育会議運営要綱第4条第3項の規定により、市長が行うこととされております。

それでは、國井市長、よろしく願いいたします。

下松市における学校部活動の地域移行について ～子どもたちの新しいスポーツ・文化活動のあり方～

○市長 それでは、私のほうで進行をさせていただきます。

ただいま河村課長、また、藤田課長から、下松市における学校部活動の地域移行についてということで、現状の課題や問題点、また、いろいろな面での新たな展開ということについて説明がありました。十分ご理解いただけたでしょうか。

なかなかこの新たな、これまでと全く違う方向なので、非常に分かりづらいかと思うのですが、ちょっとおさらいをさせていただきますと、ページが小さいのですが、3ページです。簡単に言いますと、昨年12月に少子化問題、また、教員の働き方改革の問題で、これからについては国のガイドラインによって、部活動を学校単位から地域単位への取組とするべきだということについて指摘を受けた。

そして、5ページ目になるのですか、この改革は令和5年から7年の3年間で完成をさせなさいよということになって、今度は14ページになりますか、このスケジュールについては、令和7年度末に休日の部活動について地域クラブで環境整備を図ると、平日は地域の活動の実情に応じてできることから移せということですね。

今、最後に河村課長から話がありましたように、18ページ、最後のページにありますように、こういうイメージが変わると、今までは学校部活動として学校で先生と行っていた部活動を、今度は右側のほうに、地域クラブ活動として、スポーツや文化活動を地域の様々な人と関わり合った活動にしていく、こういう大きな変革です。

ということで、5から7年、今年が初年度でありますけれども、この3年で計画を策定しなさいということなので、初年度で、まだ手探りで今いろいろな団体と協議をしたりしている段階なので、委員の皆さんに、こう決めましたよというのがまだ提案できていないので、非常に難しい、手探りの状態で御意見を求めるというのも、なかなか心苦しいので

すけれども。

こういう状況なのを教育委員の皆さんに理解していただくということで、ご質問も含めて、今の段階で御意見もあればということで、最初からスタートさせたいと思うのですけれども、ご質問なり、ご意見なりございましたら、ぜひお願いをいたします。

○教育長 今、プレゼンのほうで、部活動地域移行について、端的に、明確に方向性を説明していただきました。ポイントにつきましては、今、國井市長のほうから、さらに押さえるべきだということをご指摘いただきました。

それで、地域移行のゴールとか方向性というものは、ある程度共有ができたのではないかなというふうに思います。

今、国あるいは県が示しているやり方にのっとって市もやっというところまでございいますが、とにかく一斉に、同時に全て地域移行というのは難しいかなというふうに思っております。できるところから少しずつアプローチしていくというやり方で下松市はやっていくのだろうというふうに思います。

この地域移行の考え方として、部活動をどうしていくのかという対処療法ではなくて、地域全体で、スポーツとか文化をどう推進していくのかという大きな視点から考えていく必要があるのかなというふうに思います。

また、教員の働き方改革、これが少子化とともに大きな柱の一つではございますが、学校というのは、今言われていますが、とても忙しい。教員の仕事というのはとても忙しい。

これまで、部活動は教員がやるものだ、学校がやるものだということでずっと来たわけですが、今後は、部活動は地域単位でということで、学校から、今までは切り離すべきでないという考え方の下にやってきたのですが、そういう意識を変えていかなくてはいけないのかなというふうに思っています。

確かに部活動というのは、教育的効果が非常に高く、子供たちにとっても教員にとってもとてもやりがいのあるものでございます。

ところが、先ほど教員が今後地域に移行したときに、3割ぐらいがやってみたいと、やってもいいかな、と考えております。3割しかないというか、3割もいたというふうに捉えればいいのか分かりませんが、やはり教員の意識にも変化が見えてきていると思います。

私がやっていた頃、今から二、三十年前ですけれど、やはり、中学校の教員は部活動をやって当たり前というような意識を持った教員が多かったのではないかなというふうに思います。当時であれば、こういう地域移行というのはなかなか進めることができなかったのだろうというふうに思っていますが、大分意識も変わってきたという辺りも考えていかなければいけないのかなというふうに思っております。

それから、今後の方向性として、このスライドの、ページ番号でいうと5ページです。2枚目の上のほうに、1の学校部活動の地域移行とはというのがあって、先ほど市長さんのほうからも押さえていただきましたが、この地域移行は3年間で基本的に進めていこう

ということでございます。

3年間でやっていくということですが、下松市としては、先ほどありましたように、まず3年間で休みの日、休日については地域のほうにほぼ受けていただきたいなというふうに思っております。平日についても、可能なところから、準備が整ったところから地域移行を進めていくというふうにできればいいかなというふうに思っています。

3年が終わった時点で全て100%地域移行が済んでいるかというイメージは持っていません。かなり残るのでは、積み残しがあるのではないかなというふうに思っています。

そうしたときに、子供たちはどうなるのかということになりますので、学校部活動がある程度縮小しながら、8年度以降も学校の部活動はある程度縮小して、地域の受入れができていないクラブについては、子供たちにとって、教員の力を借りながらやっていくことが必要なのかな、というふうに思っております。

ですから、週5日ほど、活動をしていますけれど、来年度は1日ぐらいその活動日を減して、週4日ぐらいにして、そして再来年度、令和7年度にはもう1日減して週3日ぐらいの学校部活動をやって、その後、8年度以降につきましても、地域の受入れができていない部については、休みも入れて週3日の体制で平日2日、休日1日の縮小した体制で子供たちの支援をやっていく必要があるのかなと思っています。

ですから、最終的に完全に地域クラブのほうへ移行できるのが何年になるか分かりませんが、細々と学校部活動をやっていく必要があるのかなというふうに思っているところです。

これはまだ確定ではないですが、そういう方向性も必要だろうというふうに教育委員会のほうで、事務局のほうと今、話を進めているところでございます。

以上です。

○市長 ちょっと聞いてもいいですか。8年度以降も学校部活動が部分的には残る可能性があるわけですね。

○教育長 はい。

○市長 ありがとうございます。

○教育長 県内の市は、8年度からは、全て平日も休日も学校部活動をなくして、地域のほうに移行するという自治体もあります。それができない自治体については、学校部活動を残しつつ、地域のクラブへ移行していくというやり方でやる自治体もあります。こちらのほうが多いのではないかなというふうに聞いております。

以上です。

○市長 ありがとうございました。

ほかに、ご意見ございませんでしょうか。

○委員 質問なのですが、例えば、お隣の県だったり、お隣の市だったり、いろいろな、今、移行へ向けての活動をされていらっしゃるって、その中でモデル的なケースを幾つか設定されているようなところもあるというふうに、いろいろ調べた感じではあったのですが、

下松市では今、モデル事業的にやっておられる部活というのはあるのでしょうか。

○市長 事務局のほうでお願いします。

○地域交流課長 県のほうの実証事業というのを、県内では7市ほど行っています。下関市、山口市、萩市、防府市、光市と周南市、美祢市、この7市になります。下松市は、実証事業としては行っておりません。実証事業というのは、基本的には先行していろいろな取組をされているということです。

下松市については、実証は行っておりません。

○委員 ありがとうございます。

今実際に活動されている団体というのは、どのような形で活動をされていらっしゃるのでしょうか。具体的に教えていただけたらと思います。

○市長 河村課長、お願いします。

○地域交流課長 先ほどちょっと説明させていただきました、実際に活動されている、自主的に立ち上げられているクラブということで、5団体以上は既に自主的に立ち上げられているというふうに把握はしております。

ただ今も、例えば学校、校区単位とか、今の部活動自体を引き継ぐような形というか、そのまま中学校の部活動を引き継ぐといった形ではなくて、市内全体、もしくは市外の子供たちも含めて、校区をこえた形でのクラブの立ち上げというところが多いです。

まだ、今から立ち上げたいとか、そういった話についても、御意見はもらっております。以上になります。

○市長 よろしいですか。

今、木佐谷委員から、モデル地域、モデル的なものという話があって、下松市では今、例えばスポーツ協会等、こういう団体がこういう協議をしております、というような具体的な説明はまだできないのですか。

なぜかというのが、方向性までは示されたけれども、現実は今どういうことを具体的に話し合っているとか、ある程度話さないと、教育委員さんも困るというか、ただ、方向がそうなのという漠然としたことだけですか。今こういうことをやっております、実は先ほどご説明しましたけれども、こういう問題が出ています、報酬をどうするだとか、まだなかなか話せないのでしょうか。

部長、お願いします。

○地域振興部長 地域振興部の原田です。どうぞよろしく申し上げます。

この部活動の地域移行につきましては、教育委員会のほうと市長部局の地域振興部、これらが連携共同してこの事業に取り組んでおります。地域の関係については我々が主に担当しておりますので、私のほうから簡単に紹介させていただきます。

本当に部活動の大改革です。いろいろな課題が盛りだくさんで、それを一つ一つ解決するためには相当なエネルギー、時間も必要になってくるわけですがけれども、直近の様子をお知らせしたいと思います。

10月に、中学校区3校区それぞれで、地域で活躍されるスポーツ関係者、また、スポーツ少年団、公民館の体育の関係者、こういった方々に集まっていただきまして、いろいろな話をさせていただきました。

下松中学校区、久保中学校区、末武中学校区、それぞれ地域性が本当に濃い話をさせていただいたわけですが、そもそも地域移行とは何なのかということから始まりまして、子供たちは今後どういうスポーツ・文化活動をしていくようになるのかとか、本当に基本的なところから話が始まったわけです。

その中で、これから中学校の部活動はどうなるのかという基本的な話を、一番気にかけていらっしゃるのが、小学校の高学年の保護者の方々です。6年生の保護者であれば、来年の春は中学校に入るわけです。5年生、4年生の保護者は、いずれにしてもこの地域移行に関係をしてきます。そういった方々が今、一番不安な状況にあるのは間違いないです。

そのために、下松市ではどういったことを考えていくのか、また、どのようにこの事業について進めていくのか、このあたりの情報発信を早くしないといけないということは、地域の中の会議で実感をしました。

今回、そういった3校区ごとに会議を進める中で、とにかく情報を共有しないといけないと、子供は家族の中にいないけれども、指導者として子供たちに関わっているという方々も当然いらっしゃいます。そういった方々は当然、学校からの情報は比較的少ないと思うのですが、とにかく情報を発信していかないと、この話が前に進まないというのは本当に実感をしました。

今日、先ほどプレゼンさせていただきましたけれども、これは基本的なことです。こういった今日の資料の中身を考えていく間に、たくさんの課題が発生するというか、既にある課題もあるわけですし、今後、発生する課題もあると思います。こういったことに気づくことが大事なのではないかなというような気がしています。

ですから、これは学校の問題とか、保護者の問題、子供たちの問題ということはさることながら、本当に地域の中で、地域づくりの一環として進めていく大きな事業であるということと言えるのではないかなというふうに思います。

そういった意味では、地域の中でスポーツ・文化に関わっていないけれども、子供たちの健全育成のためにできることがあったら協力していこうというふうな方々に集まっていただくことが大事なのではないかなというような気がしています。

そういう意味での地域クラブ活動ということになりますので、学校部活動から地域クラブ活動に転換するという決定的なその理由の中には、地域づくりに結びつけていく、地域の活性化につなげていくということが非常に重要であるというふうに思っておりますので、その辺りをご理解いただきたいと思います。

以上です。

○市長 今、部長のほうから、この課題をプラス方向、地域づくりにできれば、これは一番

いい方向になろうと思うのですが、協議すればするほど具体的な課題がどんどん出てくると思います。先ほど発表されただけではなくて、話を詰めれば詰めるほど課題も、問題点も出てくるだろうと思います。一番いい形は地域づくり、地域コミュニティーになれば一番いいわけですから。

ということで、今、部長の発言もありましたが、江口委員どうぞ。

○委員 委員として、皆さんの意見を聞いていても、どうも曖昧で、具体的な案が出てこないといったことで、僕も具体的な案は出ないのですが、まず、この移行というのは、いろいろな意味で、今までの教育改革、方向性を全く90度変えるような感じなので、まず父兄の皆さんにも協力を得ないといけないし、子供たちの考えも聞かないといけないのですが。

まず、校区単位でやるのか、あるいは地域単位で、校区を外して全体でやるのか、この辺からまず協議していく。それから、種目単位でやっていくのか。

僕は、種目単位でやっていくほうが正解だと思うのです。僕は、今、地域でやるスポーツ少年団、これが一つのヒントになるのではないかと。このスポーツ少年団というのは、各地域、その校区だけでなく、ほかの校区からも、全校区、オールくだまつの皆さんがスポーツをやっているわけですね。

だから、もし、今までどおりやっていると、例えば、久保中学校のあるスポーツクラブは、その久保中学校だけの単位になってしまう。ところが、校区、地域を外してやれば、久保からも末武からもいろいろな皆さんが来ることができるといったことで、そのスポーツ単位で校区を外してやったほうが、より効率的だなと私は考えます。

もう一つは、地域の皆さんの協力、専門家がどのくらいいるかということです。これが一番悩ましいことで、その専門家も、変な専門家をつかまえると、お金だけ取られるというような変な指導者もいます。そういった点も選定しないといけません。

だから、まず、僕はできるスポーツ、できる種目、できる文化クラブからスタートして、それを見本として少しずつ広げていくというのが理想ではないかと思います。

○市長 江口委員から、校区でやるのか種目でやるのか、種目でやると広域的になる、そういう中でまたいろいろな問題も出てくるかと思うけれど、この辺の整理は、教育委員会か地域振興か、どちらか整理できているのですか。

○地域振興部長 今の御意見ですけれども、整理ができているかどうかということも含めてちょっとお話をさせていただこうと思います。

今現在、部活の地域移行の推進協議会という組織を設置しまして、今、その協議会で話している案件が、まさに今、江口委員さんがおっしゃったようなことです。

まず一つに、中学校3校区ごとに考えていくのか、あるいは市内1、全体、1つの校区として考えていくのかということが今議論をされています。これにつきましては、先ほどお話ししましたけれども、3校区で協議を進める中でいろいろな話を頂きました。

例えば、末武中学校のように大きな規模の中学校であれば、いろいろな部活動が成立す

るといことになるわけですが、例えば子供たちが少なくなっていく中で部活ができなくなる部、種目、競技があります。そういった子供たちが、よそにいても自分のやりたい種目、競技ができるような状況をつくるべきではないかというような声も頂いています。

これというのは、結局、一つの校区に完結せずに、大きな枠の中での関わり方ということになると思います。

ですから、大きな枠で考えたところの選択肢は、3校区それぞれで考えるのか、市内で一つと考えるのかということになると思います。

付加価値といいますか、地域移行を行うことによって、今までできなかった競技ができるようになるわけです。例えば、小学校のときに陸上競技をやっていたと、中学校になると陸上部がない。けれども新しい地域クラブ活動の中で陸上部に関わることができるということになれば、その子は小学校から引き続いて、中学校でも陸上競技をやっているというようなことも考えられます。

ですから、1つの校区で考えるのがいいのか、それとも3つの校区それぞれで考えるのがいいのか、これは本当に大きな判断をしないとイケない。あるいは両方とも進めることもできると思います。そういう選択肢があるということは、子供たちが部活動をする上での選択肢も広がっていくということにつながっていくのではないかと思います。

○委員 まさしくそのとおりであって、一つの事例を発表したいと思うのですが、私が住んでいる久保地区で東陽小学校という学校があります。20数年前に、新しい団地なので、子供たちにスポーツをさせようということで、親が自主的に陸上クラブをつくりました。それが東陽陸上クラブという名前でした。

そのクラブには東陽小学校、久保小学校、そのほかの地域からも来て、全く校区を外したスポーツクラブで、指導者がよかったのでしょうか、意外と皆さん、めきめき上達して、県大会でも優勝し、この前、今年ですが、全国大会まで行って、2種目で100メートル走と走り幅跳びの優勝をしました。

それで、名前も、最初は東陽陸上クラブだったのですが、下松東陽陸上クラブと変えました。今度、全国大会に出るとき山口下松東陽陸上に変えないとイケないという冗談が出ています。

その子供たちが、6年まで一生懸命やったけれども、久保中学校に入ったら陸上部がない。それも10年前から先生にお願いしているのですが、なかなかいい専門の先生はいないといったことで、子供は泣く泣く、中学校ではほかのクラブに入ってやっていると、こういった状況があるわけです。

だから、今度の改革ができれば、そういった子供たちが一貫して中学校でまた、校区を越えていれば、できる可能性もあります。だから、そういったメリットはあると思います。

○地域振興部長 違った例を紹介させていただこうと思うのですが、下松市内はソフトボールのスポーツ少年団がとても熱心です。いろいろな校区の中でそれぞれスポーツ少

年団があるわけですが、その中で最近では、女の子がソフトボールのスポーツ少年団に入ってソフトボールをやっているような、そういった場面をよく見かけます。

あとは、スポーツ少年団の指導者と、その周辺の方々と話をする中で、小学校のときにソフトボールをやっていて、中学校に入ると、男の子は野球部に入って野球をやる子供もいると思うのですが、女の子は中学校にソフトボール部がありません。例えば県内、市外の私立の学校に行くと、そういったソフトボールをできる機会があるというような話の中で、女子のソフトボール部をつくりたいというような話が出ております。

実際のところ、女子のソフトボールのクラブチームは今、おおむね出来上がっています。そういうクラブチームが出来上がることによって、小学校のときにソフトボールに関わった女の子たちが中学校に入ってもソフトボールができるというような状況も今進んでいます。

ですから、今後の地域クラブ活動という中で、そういった女子のソフトボールクラブが要件を満たすと、これは選択肢が広がるということになるわけです。

それが、先ほど江口委員さんがおっしゃったような東陽陸上クラブの話と一緒に、学校の部活動から地域クラブ活動に移行することによるメリットの一つとか、付加価値とか、選択肢が増えるというのが大きな変化になるのではないかなというような、そういったことの一つの例を紹介させていただきました。

以上です。

○市長 そうすると今、江口委員から話があった校区でまとめるのか、種目でまとめるのかということになると、大体、大枠、種目でまとめる方向に今行っているということで、江口委員もそこは聞いたかったと思うのですが。

○委員 そうです。

○地域振興部長 今のところ、その辺りの結論は出ておりません。これも先月、地域の皆さんといろいろな話をする中で、そういうことが見えてきたわけです。

見えてきて、考えないといけない点だなというふうに我々は受け止めたので、そういったことを一つの例としていく中で、3校区でやっていくのか、あるいは全市校区で競技ごとにやっていくのか、この辺りの結論を、先ほどお話ししました推進協議会の中で結論づけたいなというふうに思いますので、御意見ありがとうございます。

○市長 先ほどのこの説明の中では、小学生のクラブから新たな中学生の部ができるだとか、高校に行って高校生と交わってやれるよとか、そういうようなのは種目しかないですね。

そうすると、そういう方向かなということで、今、試行錯誤を重ねておるので、江口委員から冒頭に話があった、何もかも今、模索中なので、まさに見えないよということおりのので、非常に心苦しいですね。そういう状況が今だということでご理解いただけたらと思います。

林委員。

○委員 まず、今の問題にして言えば、やはり種目別に考えていくのが一番いいのではない

かと思っています。

私も幾つか知り合いの教員に聞いたのですが、ソフトテニスとか、それからバスケットボールとかは、下松だけではなくて、周南地域も含めて、いわゆる一番、最上部のクラブになると考えているというのは聞きました。

実際にそう動いているのですが、その一番大きな理由は、ソフトテニスにしろ、バスケットボールにしろ、一番中心になってさあやろうというのが教員なのです。だから、今実際に部活を運営している教員がやると、ほかの学校とか、ほかの地域から集まってきやすいというのがあるのではないかなと思います。

ちょっと話が変わるのですが、先ほど見ました部活動に関するアンケートに関してなのですが、教員が、このまま自分が地域移行になっても、休みの日でも部活をやりたいといったのが3割だと。

先ほど玉川教育長が言われたように、昔だったらもっと比率は高かったのではないかなという気がします。実際に、教員は部活に取られる時間というのは結構多いです。しかも、今のように平日だけではなく、土日は2日間ともやっているという、そういう本当に厳しい状況でした。自分がそうだったので。ただ、それぞれその場において、生徒との触れ合いは濃く、これは、学級担任をした学級の子供よりも、やっぱり一緒に汗を流した部活の子供のほうが、教員としても非常に印象に残るし、生徒指導上の部活の顧問から言われるというのは、担任から言われるよりも、生徒指導の先生から言われるよりも効くという、そういう状況もありますから。

教員を可能な限り、さっきの3割の教員でいいので、この教員だけには必ず、やりたい、続けていきたいという、その気持ちを大事にしてやりたい、大事にしていきたいなどというふうに思っています。

○市長 先ほど教育長が、3割の教員はまだ地域に出てもやりたいという、3割が多いのか少ないのかという判断は別として、私も聞いております。

今度は、子供たちが広域的に集まると、どういう手段で活動場所に行くのか、学校単位ではない地域単位となると目的がちょっと違ってくるような。

例えばサッカーでいえば、プロスポーツを目指すとか、そういう視点になっていく危険性というか、学校教育というのは、これはいろいろな問題があるから、指導者の関係とか、地域性とか、いろいろな要素がありますので、この辺も今の林委員の意見も参考にしながらやっていただきたいと思います。

いろいろ意見出ましたけれども、あるでしょうか、まだ。

○委員 子供たちのアンケートの結果というのは、ここに掲載されておりますけれども、どのようなことを目指しますかというところで、やはり一番多いのは、仲間と楽しく活動することというのがありますので、こういった子供の期待というのが受け止められるような活動になっていくといいかなと思うところです。

それともう一点、下松市は吹奏楽が盛んな市でございますが、この活動が今後ともうま

く続いていけるようにということをもたせざるを得ないかなと思います。

以上です。

○市長 事務局のほうで何か、今の御意見にありますか。

○地域振興部長 子供たちのアンケートの中で、仲間と楽しく活動することということが非常にパーセンテージを占めています。

今現状もそうなのですが、トップアスリートを目指すスポーツクラブというのがあると思います。それは徹底的な至上主義で、強いチームをつくっていこうというクラブチームになるのかも分からないのですが、地域クラブ活動というのは、そういうトップアスリートを育てるクラブではないわけです。

ないわけですから、本当に子供たちが楽しく、いろいろなことに挑戦することができる、思春期の中でいろいろなことが考えられるような、そういった時間をつくっていくための地域クラブ活動ということになってきますので、あまり、今、イメージされるレベルの高いスポーツクラブがありますが、そういうのではないということをご理解いただいておいてほしいなというふうに思います。

○委員 そういう本当にトップチームを目指すようなこの周南地域の部活と、それから、そうではなくて、学校で平日、ボールを打てればいいやというような感じの部活と、そういうのは必ず分かれてくると思います。

その学校で毎日少しずつ1時間か2時間ずつでもいいから練習したいという子供たちの面倒は誰が見るかといったら、結構、学校の先生になると思うのです。だから、さっき言った、お手伝いとか指導者で残りたいという先生方の中には、そういう形で関わってきたいというのも結構いらっしゃるのではないかなと私は思っています。

○市長 今、お二方の意見の中で、特に、楽しみながら部活をという、私も中学校のときに部活で友達ができました。部長はトップアスリートを目指すのではないよというふうに言われましたけれども、これも指導者の考え方になるわけです。

私もいろいろな指導者を見てきたけれども、指導者によって考え方が違うから、その部の運営というか、クラブの運営がしっかりしていないと、子供たちが活動する中で、そんなことを思っていなかったのだけれどというようになってしまうとまた面白くないので、そういったところも大変だろうと思います。

先ほど江口委員から、まだ見えてこないと言われましたが、確かにまだ見えてこないです。今日、市議会の議員さんがたくさんおられますけれども、先進地の視察に行ったりされて、進んでいるところがあるよっていわれます。そういうところは、教育委員会と市長部局の連携を十分とらないといけませんね。

先ほどからスポーツの観点、教育の観点というのがいろいろ出てきますけれども、それがバランスを取らないと、これはうまくいかないと思います。

今、事務局も大改革をやっているわけです。

玉川教育長。

○教育長 今、市長さんが言われたとおりで、やっぱり教育委員会と市長部局の連携がますます必要になるのだろうというふうに思います。

今日、私は、お話をお伺いしながら、分からない部分は何だったのかというのが少し分かってきたような気がしております。まだまだやらなくてはいけないことはたくさんあるのですが、それぞれ、教育委員会は学校の子供たちと先生方が今やっている枠の中で、どう、その枠を飛び出して地域のほうに行くか、その橋渡しを教育委員会と学校がやっていかななくてはいけないなというふうに思っています。

ですから、完全に子供たちがその橋を渡って、自分がやりたいクラブ活動、地域クラブ活動を見つけてやれるまでにやっぱり時間かかるのかなというふうに思います。

最初に言いましたけれど、そこに行くまでは、今の体制を、クラブ活動を、少しずつ縮小して、活動を縮小しながらも維持していき、完全に移行するまでは維持していきながらやっていくことが大事なのかなというふうに思います。

一番やっぱり気になっているのは、地域、自治体間の格差を、教員というのは県内全部で、全部を移動するわけですので、いろいろな市の情報を聞きます。全部地域クラブへの移動ができている自治体というのは、学校での教員の仕事といたしますか、部活の業務負担がなくなるわけです。

そこに行くまで、下松も必ずそこを目指して、ゴールを目指してやるわけでございますが、単純に3年でということはまず無理だろうと、それをやると子供たちが犠牲になってしまうだろうという想定の下に、部活動を縮小しながら援助していくというやり方を、今選択をしているわけで、それを学校の教員のほうにも理解してもらって、しっかり協力してもらいたいなというふうに思っております。

○市長 先ほどのお話の中にもありましたが、この3年というのはリミットではなくて、3年を目途に進めていくということなのですね。休日については、どんどん進めるけれども、できるところからやるということで、平日はできるところから。できないところは学校に残すということもあるわけですね。

○教育長 そうです。やはり、子供たちの現状に合ったやり方だろうというふうに思います。3年間かけて、休日の部活動を地域に完全に移行する。それも完全にはできないというふうには思っております。

それから、平日についてはもっとハードルが高くて、地域の人が子供たちを受け入れることができるかどうかだったら、平日の方が、もっとできないと思うのです。

平日に子供たちの行き場がなくなる、やりたいけれどできない、週4日今活動していますが、それを半分にして、週2日は子供たちを今までどおり見てもらい、そして、残りの2日は、業務軽減に、負担軽減になるので、空いた時間を教材研究とかにしてもらおうと、教育の質も変わっていくのではないだろうかというふうに思っています。

ですから、8年度以降は、休日は基本的に地域クラブ、平日は地域クラブの移行が済んだところは、子供たちはそちらのほうに行く。完全に面倒を見てもらえるところがなけれ

ば、それは学校でも面倒を見ていきましょうと。

ですから、地域クラブの方と、それから学校と連携しながら、持ちつ持たれつで子供を支えていくという体制がしばらく続く、続ける必要があるだろうというふうに考えています。

○市長 これは私が、知らなくて大変申し訳なかったのですがけれども、安心しました。どうにもならない場合はという選択肢もあるということで非常に安心したところです。

木佐谷委員。

○委員 1つのクラブに1人の指導者とか2人の指導者という感覚なので、少し成り立たない感じなのかなと思っているのですけれど。

例えば今、玉川教育長が言われたように、平日の2日間、学校の先生が見てくれるような環境であれば、地域の有能な指導者の方が、例えば、その間の土曜日か日曜日と平日の2日間を見てくださるとか、地域の方もお一人ではなく2人、3人と指導者がいれば、交代で、シフト制というのですかね、1週間をシフトのように、月曜日と水曜日は私が見ますといった、そういうふうにシフトを組めるような人数体制であれば、子供たちの活動も減らないであろうし。

例えば、さっき言われた地域でやるのかとか、そういう話もですけど、今から子供さんの人数も減っていくかもしれないとかという話の中で、下松市は幸いコンパクトシティなので、ほかの、先日研修に参加した美祿市のような、移動にとっても時間がかかるような地域性ではないので、市内であれば子供さんが自転車で移動可能な、末中から下中とか、久保中からはちょっと難しいかもしれないのですけれど、下中の子が末中に活動をしに来るというぐらいなのは可能なかなと考えていました。

そうしたときに、末武中学校で、顧問というか、部活の先生が1人と地域の方が3人、4人、市内の方がシフト制で、ただお一人で見られるのはやっぱり負担なので、その日に2人担当がいるという感じでやると、やっぱり中学生のお子さんを一人の指導者が見るとするのは結構大変で、夏の部活も最近ちょっと危険なことが増えていますし、責任が重たく、責任がすごくかかってくるのかなというのがあります。

指導者プラス、何かお手伝いをしたいという方とかでもいいと思います。スポーツに関して専門知識がなくても、お手伝いで子供たちを見守りたいという方がもう一人とか、もう二人とかでも、1週間のうちに今5日の部活を4日には減らすことはあるかもしれないのですけれど、現状まで維持というのは難しいかもしれないのですけれど、もう少し緩やかに移行できないのかなというのは考えていました。

その際に、指導者の方の募集が今のところどのように募集されているか分からないのですが、豊富な情報網で有能な方を集めていらっしゃると思うのですが、子供の指導のお手伝いに当たることができる方の募集も広く行ったらいいと思います。

大体、子供さんの部活は4時から6時です。その間に動けそうな方でお手伝いをしてくださる方という感じでもいいし、少しこういうスポーツの経験があるとか、知識がある方

という感じで募集して、登録制みたいにして、お声をかけていくというのはどうかと考えていました。

すみません。意見がまとまらないのですけれど、いろいろな方向で、先生も負担が軽くなって、子供たちも部活で発散できて、教室以外の自分の居場所というのが減らされずにあって、学校の先生にも相談できる場所があって、保護者の送迎ができないから部活を諦めるという状況にならないようにしてほしいです。

○市長 大変貴重な、素朴な、当然組織をつくれれば、複数、一人だけでやりきれないですね。その組織に応じて何人かの体制になると思いますが、この辺は、事務局のほうから何かお願いします。

○地域振興部長 まず、指導者の関係です。これは地域クラブ活動として、クラブチームが出来上がっていくことが予想されるわけです。ですから、そのチームを立ち上げる方々が中心になって、指導者の確保に努めていただくような格好になると思いますので、下松市とか教育委員会のほうで指導者を確保して、その指導者をクラブチームに派遣するというような理屈にはならないと思います。

ですから、クラブチームを立ち上げていく人、既にクラブチームが出来上がって活動をしている人、その方々を中心に体制づくりをしていくようになると思います。

そのために、我々、市と教育委員会のほうが情報提供しながら、講師、指導者、その辺をお願いするようなことがあると思うのですけれども、全面的には、現場で指導される方々を中心に組織づくりが行われていくというように思っています。

あと、久保中校区の子供たちが、末中校区、あるいは下中校区のほうの部活動に関わるようなことも当然想定されるわけです。そういったときに保護者の負担が発生するのか、あの辺りが今後の論点になっていくかなと思っています。

あと、学校と地域の関係ですね。これは、学校部活動を、地域クラブ活動に転換するわけです。

ですから、いろいろお互い情報交換しながら共有して部活動の運営をしていかないといけないと思うのですけれども、いずれどこかのタイミングで完全に学校から切り離されて、地域のクラブ活動としてやっていくような形になりますので、学校の先生はどこかで関係がなくなるということになると思います。

そういったことで、これまで長い間続いてきた学校の部活動から地域クラブの部活動に転換をして、これからさらに10年、20年、30年続いていかないといけないようなことになるわけです。そういったことからすると、その場の勢いで、思いつきで考えていくことではないわけですし、しっかりと慎重にいろいろなことを想定しながら、限られた時間の間に準備をしていきたいというふうに思っています。

○教育長 木佐谷委員さんが言われたことは、とってもよく分かります。学校で8年度以降は週2日、地域の受入れがなければ学校のほうで面倒を見ていくという話をしたから、今までからしたら5日のところが3日になって、子供たちかわいそうという話だろうと思

ます。

学校部活動として残す以上は、学校の教員の負担も軽減しながら今後やっていかなければいけないということで、提案として、学校のほうには今、8年度以降は2日ということで、残りの日については、やはり、地域の人とか、支援してくれる方がおられたら、やはり可能なのかなというふうに思います。

今、提案されたやり方も、移行期間中は必要なというか、大事な手だてなのかなというふうに思っております。

○市長 ご意見どうぞ。

○委員 過程の話ですが、もし種目別に地域移行するのであれば、例えば野球の場合だと、全員数えると50名以上になってしまいます。この50名以上の選手登録とか、保険とか、事務局、運営するのは地域に任せるのか、あるいは学校が責任を持ってやる、この辺はどうですか。

○地域振興部長 大きな仕組みを考えたら、地域クラブ活動を進めるのが、いわゆる実施団体ということになります。教育委員会での市長部局の我々は、いわゆる行政という立場です。行政と地域クラブ活動を実施する実施主体、これをつなぐいわゆる運営団体ですね。先ほどプレゼンの中でも紹介させていただきましたけれども、この運営団体を設置する必要があるというふうに思っています。

これは、いろいろな団体が考えられますので、この辺りを今現在、協議をしているところで、この運営団体が、部活の地域移行の一番肝になる部分だというふうに思っています。この運営団体が地域クラブ活動を上手にマネジメントしていく中で、保険の問題や、子供たちの心理的な問題の解消というか、メンタルヘルスケアとか、こういったことを総括的に対応できるような体制づくりということになっていきます。

今日、これまで運営団体の話をさせていただかなかったので、分かりにくかったと思うのですが、行政と現場のクラブ、いわゆる実施団体、その間に運営団体を設置することは、今しっかりと準備を進めていますので、この辺りが明らかにされると、これは一気にこの事業が進んだような感じに思われると思います。

今のところ何かよく分からないまま進んでいるように思われるかもしれませんが、いずれ、その辺りが明らかにされることによって、理解しやすくなるような、そういう事業として考えています。

○市長 先ほども申し上げましたけれども、今、初年度ということもあって、地域の事情もあって、なかなか進んでいないという段階で、今日の会議のテーマに上げさせてもらいました。ある程度の段階、今、部長は、一定のこの運営団体ができれば、さっとスムーズに移行できて、目に見えるような形になる、そういう展望を持っておられます。

○委員 今後、要望ですが、総合会議は別として、教育委員会の中で、事務局を呼んで、それでお話を進めていけたらと思うのですが。もし進展がいろいろとあった場合をお願いします。

○**教育長** ありがとうございます。

早速、今月の定例会議の中の議題で上げる予定でありますので、また中身についてはご相談させていただきます。

○**市長** 今の話が少し今日のまとめ的な話になろうかと思うのですが、なかなか他の団体との協議をしている中で、表に出せない部分も若干ある中での協議なので、その辺ではご理解頂きたいというふうに思います。

いずれにしても、今話がありましたように、これは、教育にとって大きな転換期、変革でありますので、これをスムーズに、子供たちにとって有益となるようにスピーディーに、スピード感を持って進めていきたいというふうに思います。

これで今回の総合会議は終了させていただきたいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。

午後3時終了